

言語聴覚士 国家試験 マスターノート



監修 上月 正博 山形県立保健医療大学 理事長・学長、東北大学 名誉教授

編集 志賀 清人 岩手医科大学 医学部 耳鼻咽喉科頭頸部外科学講座 教授

大塚 裕一 熊本保健科学大学 保健科学部 リハビリテーション学科 言語聴覚学専攻 教授

福岡 達之 広島国際大学 総合リハビリテーション学部 リハビリテーション学科 言語聴覚療法学専攻 准教授

定価 7,480円 (本体6,800円+税10%)
B5判・644頁・2色刷
イラスト597点、写真100点
ISBN978-4-7583-2086-3

目指せ合格!

『言語聴覚士国家試験出題基準 令和5年4月版』に準拠

従来の国試過去問解説本と違い、

過去20年以上の出題傾向分析をもとに

必須知識とその学習方針をわかりやすく解説

▶ 要点をパツとつかんで、効率的に学習できる!

すべての試験科目をカバーし、

国試合格に必要な知識をもれなく盛り込んだ

「欲張りな」1冊!

国試直前対策はもちろん、

国試対策の講義開始時から

使える参考書

「基礎編」と「専門編」を分冊できる

持ち運びに便利なBook in Book形式

学習のなかで自分で調べたことや

補足したいことを、直接本書に書き込んだり

付箋を貼ったりすることで、

自分だけのオリジナルテキストを作れる!

目次

第1分冊 基礎編

- I 章 基礎医学
- II 章 臨床医学
- III 章 臨床歯科医学
- IV 章 心理学
- V 章 音声・言語学
- VI 章 社会福祉・教育

第2分冊 専門編

- I 章 言語聴覚障害学総論
- II 章 失語・高次脳機能障害学 (失語症)
- III 章 失語・高次脳機能障害学 (高次脳機能障害)
- IV 章 言語発達障害学
- V 章 発声発語・嚥下障害学
- VI 章 聴覚障害学

出題傾向

各分野の専門家が過去20年以上の出題傾向を徹底分析！国家試験の主な出題内容と毎年の出題数を記載

学習方針

【出題傾向】に対する学習の方向性を明示

国語で重要なポイントに絞り、
箇条書きの平易な文章で簡潔に解説

つまずきやすいポイントも
丁寧にサポート！

特に重要な内容は
色付き文字で
強調しました

言語発達を説明する理論

- ▶ **生物発達**
 - Chomskyの説で、人は生まれつき**言語獲得装置**(LAD: language acquisition device)をもっているという考えである。
 - LADが働くことで人は普通文法を獲得し、言葉を獲得することができる(図1)。
- ▶ **学習説**
 - Skinnerの説で、言語の獲得は刺激(「ワンワンいたね」)→反応・模倣(「ワンワン」)→強化(「上手にいたね!!」)といった**オペラント条件づけ**によって行われるという考えである(図2)。
- ▶ **認知説(図3~5)**
 - Piagetの説(特に**象徴機能***)の発達が重要で、言語発達は認知発達と連動している。
 - 象徴遊びや延滞模倣などの象徴機能の獲得と言語発達のなかでイメージができるようになることで、言葉の獲得は1歳前半から2歳ごろになる。



豊富な図表で
視覚的に理解できる！

1: 神経心理学の基本概念

出題傾向

- ✓ 神経心理学の基本概念に関する問題は毎年1問程度出題されている
- ✓ 主な出題内容は以下のとおり
 - ・高位(前頭性)の中枢的な脳機能(局在論)と、損傷した部位に局在しない脳機能(全般論)
 - ・脳損傷後の機能局在
 - ・情報処理のしだ(ボトムアップ処理とトップダウン処理)
 - ・希羅(二重準備の原理, Balliger-Jacksonの原理)

学習方針

- ✓ 高位脳機能障害の理解に必要な基礎的な用語(側性、局在、希羅、難断)を覚える
- ✓ 側性や局在が認められる機転をそう得意機能について理解する

ここが大事!

- 単語とそれに関連するキーワードをしっかりと覚えましょう。
- 側性や局在について、文章のみで覚えただけの脳と局在を確認し、合併しやすい症状についても理解できるようにしましょう。

局在、側性、難断とは何か

側性とは、ある脳機能の一部の半球に偏って存在することである(例: 左半球の言語機能)。局在とは、ある脳機能を脳の特定の部位が司っていることである(例: 記憶の海馬、図1)。

脳損傷後の機能局在

- ▶ 脳損傷後の側性、機能局在が変化することがある。
- ▶ 損傷された部位をほかの部位が代償する。

情報処理

- ▶ ボトムアップ処理: 一次感覚野から高位処理野へ、入力された情報を階層的に処理するための。



最新の過去問を参考に各専門家の先生が作成した、オリジナル〇×問題を解答とともに掲載理解度をセルフチェックできる！

▶ トップダウン処理: 高位処理野から低次へ、自身の知識や経験から予測しながら処理をするため、速度は速いが、誤覚や思い込みがみられることがある。

▶ **希羅**

▶ **二重準備の原理(図1)**

- ある準備部位でみられる症状が抑制はみられず、目でみられる症状がみられるないこと。

▶ **バイラルジェ・ジャクソンの原理(両意性と自動性の希羅)**

- 障害のためいつかは両意的でないことが、自動的な状況ではみられることができること。

▶ **局在と二重準備の原理**

▶ **ANSWER**

1. 難断とは、ある脳機能を脳の特定の部位が司っていることである。
2. 脳機能のなかでも言語機能は局在的である。
3. 二重準備の原理は両意性と自動性の希羅のことである。
4. 損傷された脳機能を代償する部位は存在していない。
5. トップダウン処理は、予測的処理速度が速い。

▶ **最近の出題**

出題分野	出題内容	出題年数
神経心理学の基本概念	神経心理学の局在とその意味の組み合せ	24/2061
	神経心理学について誤った事項	21/2462

5: 言語発達学

出題傾向

- ✓ 言語発達に関する問題は毎年3問程度出題されている
- ✓ 主な出題内容は以下のとおり
 - ・言語獲得の生物学的理論
 - ・言語獲得の学習理論(学習説)
 - ・1-2歳の言語発達(特に発音、聴覚的覚知)
 - ・幼児期の言語発達(特に認知力の発達)
 - ・学習期の言語発達(特に読み書き能力の発達)

学習方針

- ✓ 言語発達を説明する理論から読み取りたい内容を、生物発達論(図1)と学習説(図2)を比較しながら理解し、特にPiagetの象徴機能についてよく理解される
- ✓ 前頭葉のコミュニケーションの発達では、特に両側性に関連する領域(記憶、言語、実行)の発達、言語の発達、両半球の発達をしっかりと覚えること。実行機能、言語習得の発達では、ライオンから情報処理に至る実行機能を理解して覚えることが重要である
- ✓ 1-2歳の言語発達では、認知に連関される象徴的特徴、通次用、CDS (child-directed speech)の特徴などが重要である
- ✓ 幼児期の言語発達では、認知の発達と発達スクリプトについて、読み書きの発達と象徴機能に関する知識が重要である
- ✓ 学習期の言語発達では、読み書きの発達とメタ言語などが重要である

ここが大事!

- 言語発達は言語獲得論(「専門書」p.40)でも多く出題されるため、本朝や発達心理学の分野についてしっかり理解しておくことが必要である。
- 1-2歳の言語発達(特に発音、聴覚的覚知)は、幼児期の言語発達の発達と関連する。読み書きの発達も重要である。

最近の出題

各項目に関連する過去5年分(第21~25回)の
国試問題番号と概要を紹介

ここが大事!

【学習方針】の内容に関する覚え方のコツや
アドバイス、必ず理解しておくべきポイント
の学習方法などをまとめました

国家試験対策の講義にも
ご活用ください!



※ご注文、お問い合わせは最寄りの医書取扱店または直接弊社営業部まで。
〒162-0845 東京都新宿区市谷本村町2番30号
TEL.03(5228)2050 E-mail(営業部) eigyo@medicalview.co.jp
FAX.03(5228)2059 https://www.medicalview.co.jp



注文申込書

言語聴覚士国家試験 マスターノート

定価 7,480円(税込) ISBN978-4-7583-2086-3

ご希望の冊数を
ご記入ください。

注文日 年 月 日

お届け方法(ご希望の方法に✓印をご記入ください)

- 書店 お受け取り希望の書店にお渡しください。
- 代引宅配便 配送手数料 550円(税込) ※税込5,500円以上のご注文は無料

取扱店

フリガナ
お名前

〒 (どちらかに○印/ ご自宅・ご勤務先)

お届け先

TEL. ()